



県南地方の農林業



福島県県南農林事務所

1 県南地方の概要

地勢

県南地方は、首都圏から東北圏への入口に当たる福島県の最南端に位置しています。

白河市をはじめとする1市4町4村からなり、その面積は、1,233.07km² (西白河地方612.12km²、東白川地方620.95km²)で、県土の8.9%を占めています。

東部に阿武隈山系、西部に奥羽山脈、南部に八溝山系があり西白河地方を流れる阿武隈川と東白川地方を流れる久慈川の流域に沿って平野部が開けています。

また、阿武隈川及び久慈川の源流域にあたり、白河合同庁舎の標高は363mあります。



小峰城(白河市)



雪割橋(西郷村)



大池公園(矢吹町)



童星夢公園(中島村)



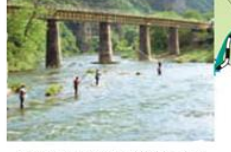
山本不動尊(榎倉町)



榎倉城跡(榎倉町)



南湖公園(白河市)



矢祭山近くのあゆ釣り(矢祭町)



江竜田の滝(鮫川村)



ダリア園(塙町)

県南地方の特産物



●ブロッコリー

福島県内有数の生産地です。水詰の状態出荷されるため、抜群の鮮度を保ったまま届けられます。



●お米

清らかな源流の豊富な水と肥沃な大地に育てられたコシヒカリは、食味ランキングで「特A」評価の絶品です。



●トマト

水と養分を管理して丹精込めて栽培されています。甘味と酸味のバランスが良い、濃厚な味わいが特徴です。



●塙町のダリア

塙町には300種5000株が咲き誇る「ダリア園」や、老人会・小中学校のミニダリア園がたくさんあります。町全体でダリア栽培に取り組み、町はダリアでいっぱいです。



●ゆず

矢祭町では実をまるごと使って作られるゆずシャーベットや、ゆず味噌、ゆずドレッシングなど、香り高い加工品が豊富です。



●はとむぎ

泉崎村を中心に作付されており、健康食品として注目されています。美肌効果があるとされ、お茶や化粧水も作られています。



●久慈川の鮎

水がきれい良い苔がで、それを食べて成長する天然の鮎は味も姿も日本一といわれています。



●いちご

矢祭町、塙町、榎倉町が主産地です。甘さと酸味のバランスが良く、11月中旬から6月上旬まで、おいしいいちごを味わうことができます。



●こんにゃく

健康食として注目されるこんにゃく。東白川のこんにゃく作りは江戸時代中期に始まり、その伝統が今も受け継がれています。



●えごま

荏胡麻は別名「じゅうなん」。食べると「十年」長生きするといわれ東北地方で昔から親しまれてきました。大変貴重な健康食品です。



●じゃがいも

甲子高原の気候と大地はじゃがいもの栽培に最適で、本来の甘味やう味がたっぷりの絶品です。

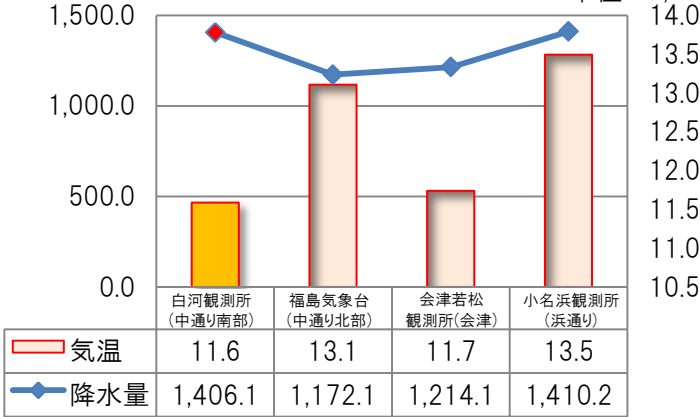
気候

県南地方は夏は涼しく、冬は雪が少ない温暖な気候が特徴です。

昭和55年～平成29年の期間の年平均降水量は、白河特別地域気象観測所の観測で1,406.1mmです。これは福島気象台(1,172.1mm)や会津若松特別地域気象観測所(1,214.1mm)よりも多く、小名浜特別地域気象観測所(1,410.2mm)と同程度の降水量です。

また、同期間の年平均気温は白河特別地域気象観測所で11.6℃と、福島気象台(13.1℃)や小名浜特別地域気象観測所(13.5℃)よりも低く、会津若松特別地域気象観測所(11.7℃)と同程度の気温となっています。

単位：℃/mm



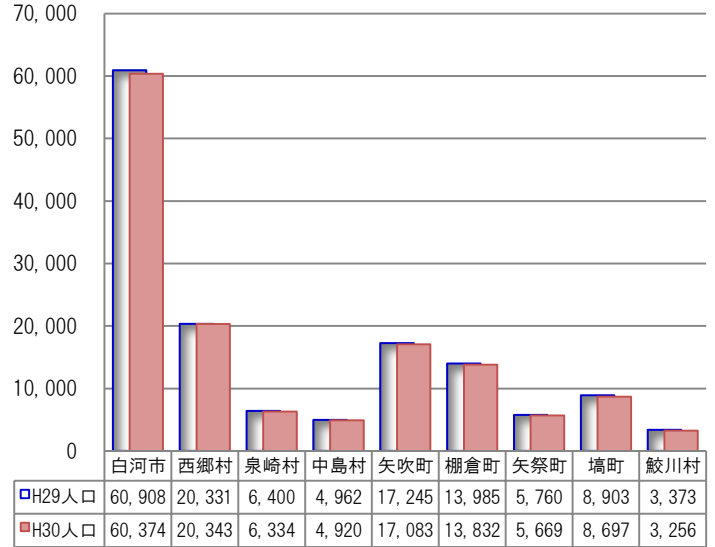
※気象庁統計

人口

管内の人口は、平成30年4月1日現在、140,508人で、県全体の7.5%を占めています。その内訳を見ると、西白河地方が109,054人、東白川地方が、31,454人となっています。

また、平成29年4月1日現在の人口と比較すると1,359人の減で、減少率は1.0%となっています。

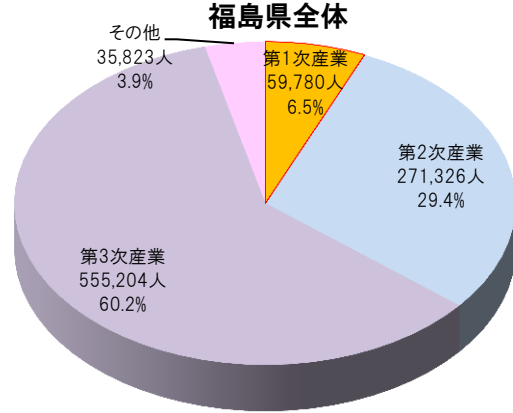
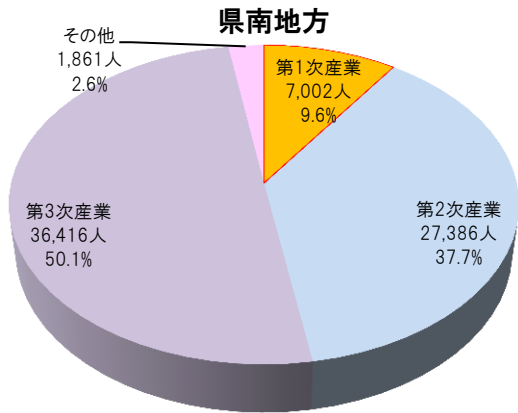
単位：人



※福島県の推計人口(福島県HP)(H30.4.1現在)

就業構造

福島県県南地方においては、15歳以上の就業者72,665人のうち9.6%を占める7,002人が第1次産業に就業しています。福島県全体の第1次産業就業者は全就業者のうち6.5%を占める59,780人であり、県南地方は県全体よりもやや高くなっています。

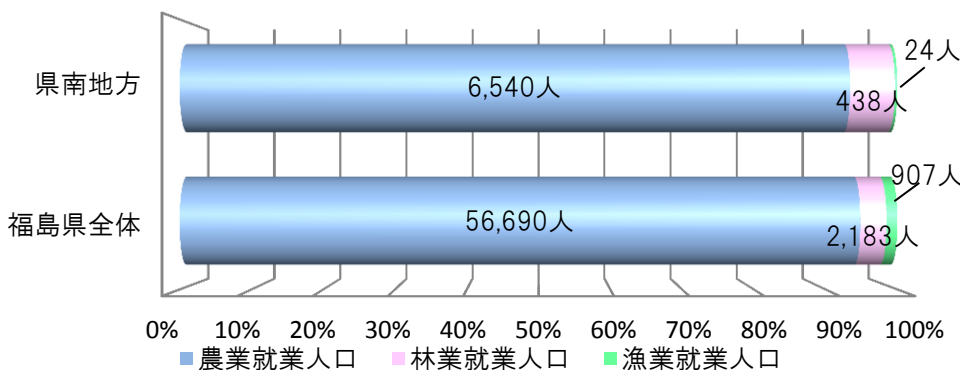


※平成27年国勢調査

2 農業・農村・森林林業の概況

第1次産業就業構造

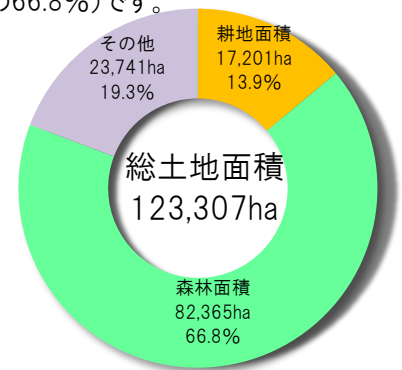
- | | |
|---|--|
| <p>● 農業就業人口 6,540人(県全体の11.5%)</p> <p>● 林業就業人口 438人(県全体の20.1%)</p> | <p>● 農業就業人口 56,690人</p> <p>● 林業就業人口 2,183人</p> |
|---|--|



※平成27年国勢調査

土地利用状況

管内の土地利用状況は、平成28年度現在、耕地面積が17,201ha(総土地面積の13.9%)、森林面積が82,365ha(総土地面積の66.8%)です。



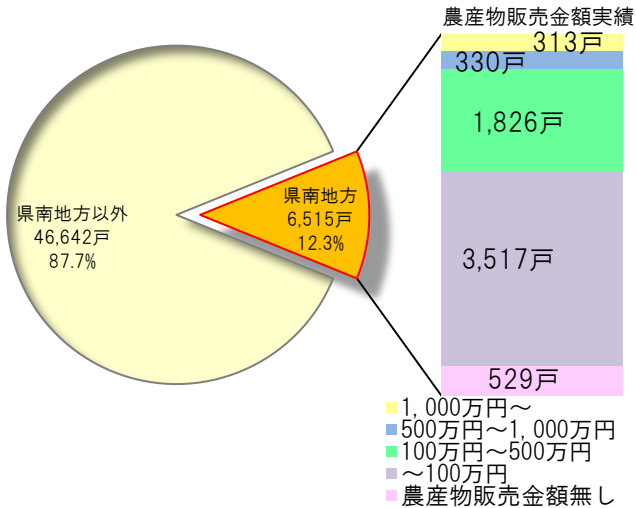
※福島県企画調整部統計課編福島県統計年鑑(第132回)及び平成29年福島県森林・林業統計書から作成

農業に関するデータ

写真：塙町台宿地域

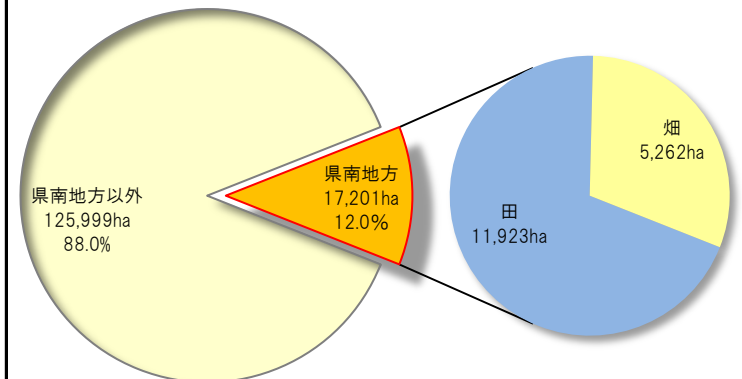
(1) 農業経営体数

- 平成27年2月1日現在の農業経営体数は6,515戸で県全体の12.3%を占める
- 農産物販売金額実績が100万円以上の農家は2,469戸で県南地方全体の37.9%を占める



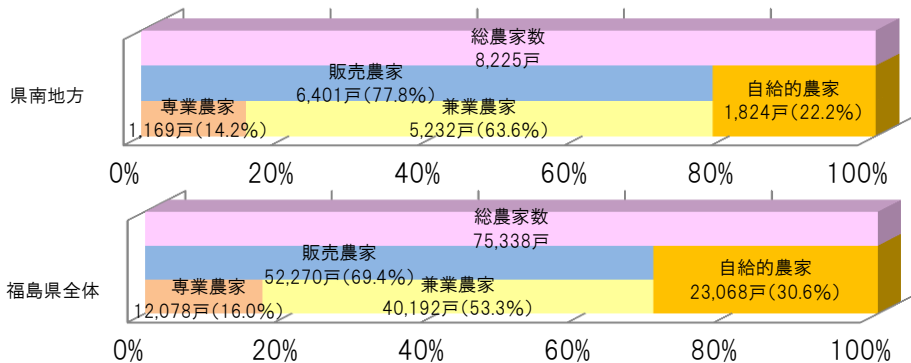
(2) 耕地面積

- 平成28年7月15日現在の耕地面積は17,201haで県全体の12.0%を占める
- うち田面積は11,923ha、畑面積は5,262ha(ただし、四捨五入の関係で耕地面積とは一致しない)



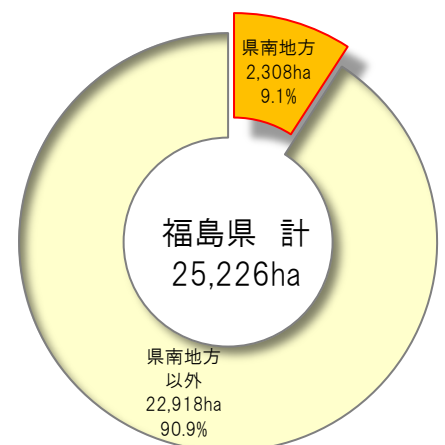
(3) 農家分類

- 平成27年2月1日現在の県南地方の総農家数は8,225戸で県全体の10.9%を占める
- 販売農家6,401戸のうち8割を超える5,232戸が兼業農家



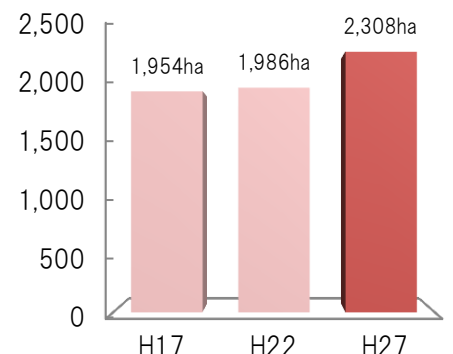
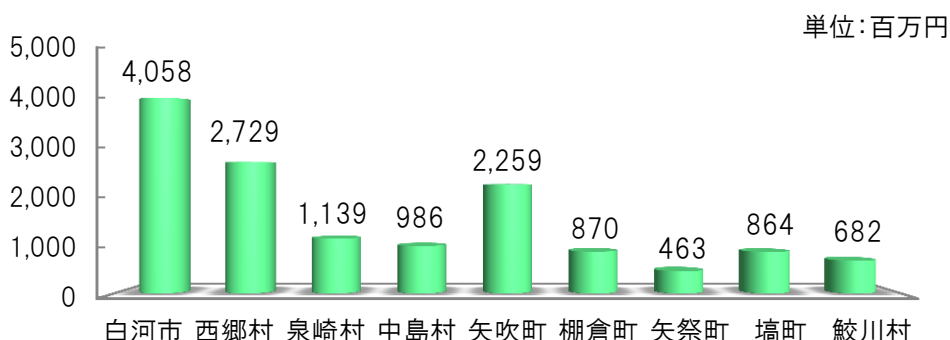
(5) 耕作放棄地面積

- 平成27年2月1日現在の管内の耕作放棄地面積は2,308haで、県全体の9.1%
- 耕作放棄地面積は増加傾向にある



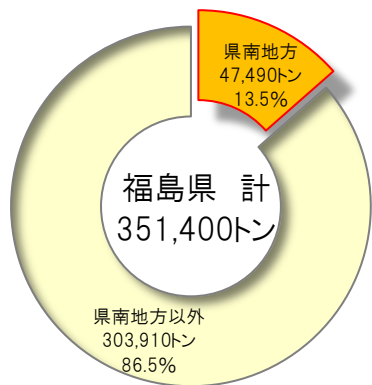
(4) 市町村内生産額(農業)

- 平成27年度の市町村内生産額(農業)は14,050百万円
- 管内市町村のうち白河市が最も高く4,058百万円



(6) 水稲生産量

○平成29年産米の生産量は47,490トンで県全体の13.5%を占める



※作物統計調査(農林水産省)

コラム

福島県オリジナル品種「天のつぶ」と「里山のつぶ」

「天のつぶ」は、平成7年に現在の福島県農業総合センターにおいて、栽培しやすく、玄米品質が良好な品種を目指し育成を始め、15年もの歳月をかけ完成した県のオリジナル品種です。
粒は「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」より大きく、収量が高いことが特徴です。



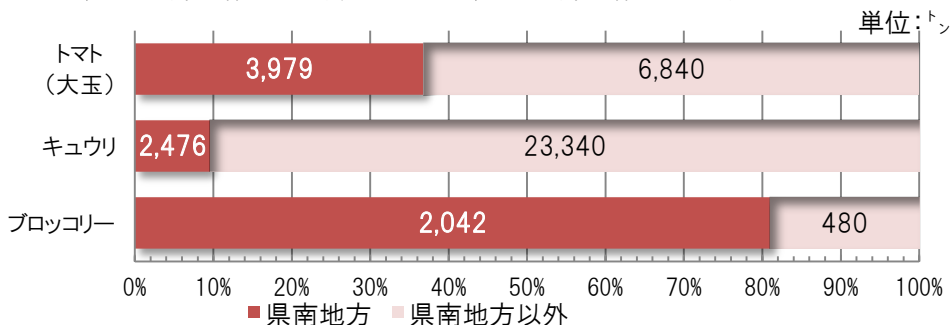
「里山のつぶ」は平成15年から11年もの歳月をかけて完成した品種です。

栽培適地は標高300メートル以上の中山間地域で、食べたときに感じられるしっかりした歯ごたえと、適度な粘りが特徴です。

「天のつぶ」及び「里山のつぶ」は県内の直売所やスーパーで販売されています。

(7) 園芸作物出荷量

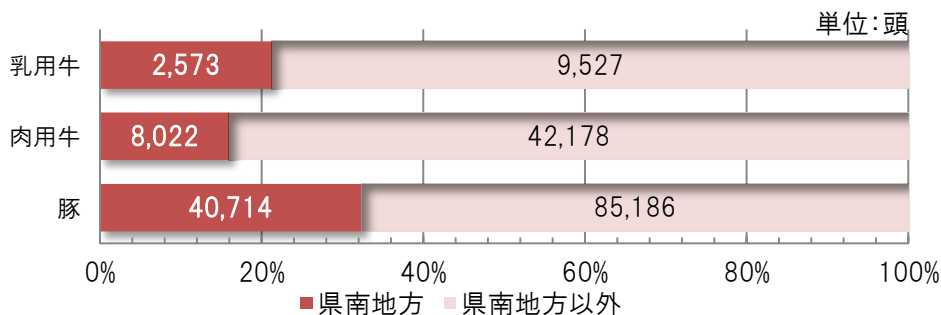
○平成30年3月31日現在の園芸作物出荷量はトマト(大玉)3,979トン(県全体の36.8%)、キュウリ2,476トン(県全体の9.6%)、ブロッコリー2,042トン(県全体の81.0%)



※県南農林事務所(農業振興普及部)調べ(管内JAからの情報を含む)

(8) 家畜の飼養頭数

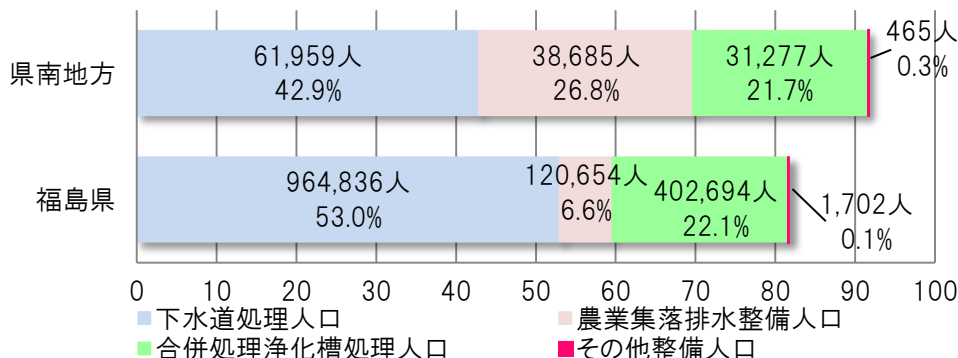
○平成29年2月1日現在の家畜の飼養頭数は乳用牛2,573頭(県全体の21.3%)、肉用牛8,022頭(県全体の16.0%)、豚40,714頭(県全体の32.3%)



※第64次東北農林水産統計年報、県南農林事務所(農業振興普及部)調べ

(9) 汚水処理施設整備状況

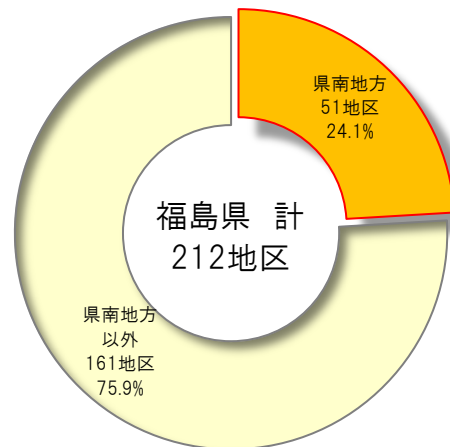
○平成28年度の汚水処理人口普及率は91.7%で県全体の81.8%を上回っている
○農業集落排水整備人口普及率は26.8%で県全体の6.6%を大きく上回る



※福島県企画調整部統計課編福島県統計年鑑(第132回)から作成

(10) 農業集落排水事業実施地区数

○平成30年3月末の農業集落排水事業実施地区数は51地区で県全体の24.1%を占める

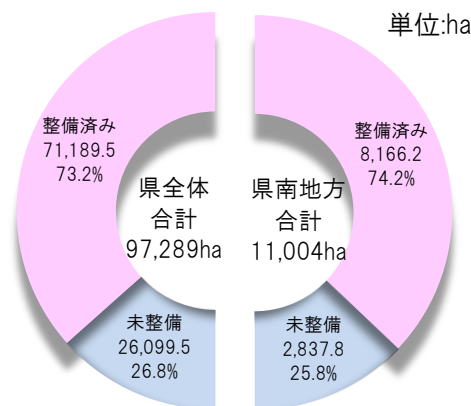


※福島県農村基盤整備課、県南農林事務所(農村整備部)調べ

(11) ほ場整備の状況

○平成30年3月末までのほ場整備済み面積は8,166.2haで全体の74.2%を占める

○福島県全体の整備率とほぼ同率



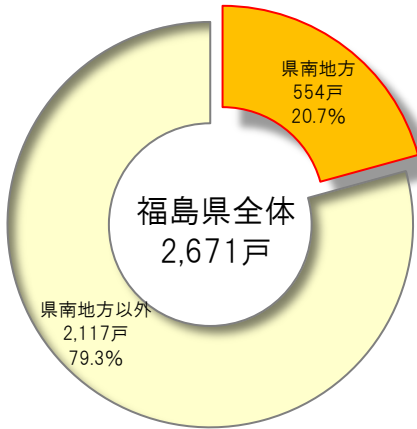
※福島県農村基盤整備課、県南農林事務所(農村整備部)調べ

林業に関するデータ

写真：矢祭町大ぬかり地域

(1) 林業経営体数

○平成27年2月1日現在の林業経営体数は554戸で県全体の20.7%を占める

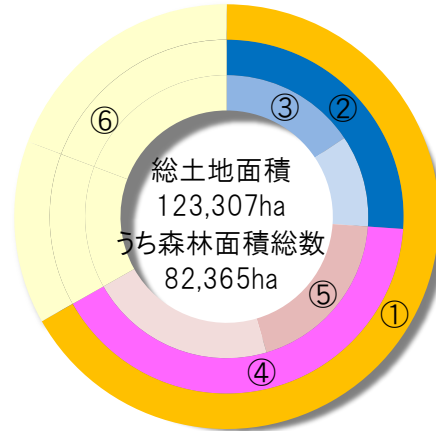


※平成29年福島県森林・林業統計書

(2) 森林面積

○平成28年度の森林面積は82,365ha

○人工林の面積は43,113ha(うち国有林19,266ha、民有林23,847ha)

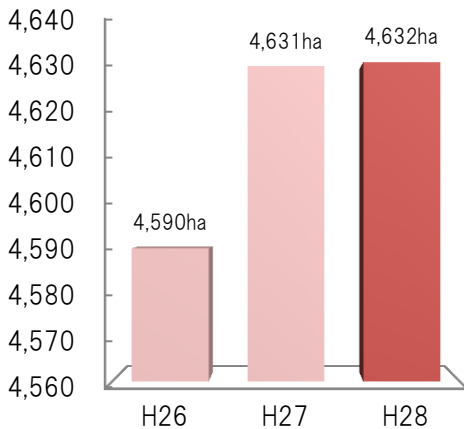


番号	区分	数量	割合
①	森林面積	82,365ha	66.8%
②	①のうち 国有林面積	32,198ha	26.1%
③	②のうち 人工林面積	19,266ha	15.6%
④	①のうち 民有林面積	50,168ha	40.7%
⑤	④のうち 人工林面積	23,847ha	19.3%
⑥	その他 (森林面積以外)	40,942ha	33.2%

※平成29年福島県森林・林業統計書

(3) 保安林面積の推移

○平成28年度の保安林面積は4,632ha

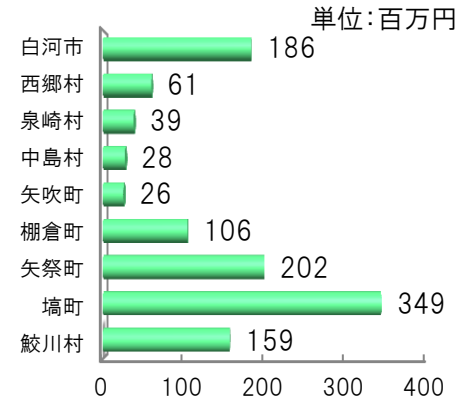


※平成29年福島県森林・林業統計書

(4) 市町村内生産額(林業)

○平成27年度の市町村内生産額(林業)は1,156百万円

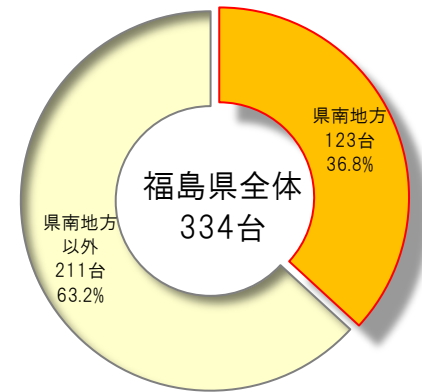
○管内市町村のうち埴町が最も高く349百万円



※福島県統計課「平成27(2015)年度福島県市町村民経済計算年報」から作成

(5) 高性能林業機械の台数

○平成29年3月31日現在の高性能機械の台数は123台



※平成29年福島県森林・林業統計書

(6) 林内道路密度

○平成28年度末の管内の林道延長及び林内公道延長の合計は808,499mで、林内道路密度は16.12m/ha

○西白河地方の林内道路密度は12.70m/ha、東白川地方は19.00m/ha。東白川地方は県全体と比べて高い林内道路密度となっている。

	民有林面積 (ha)	林道延長 (m)	林内公道延長 (m)	林内道路密度 (m/ha)
福島県全体	565,750	4,091,995	3,998,060	14.30
県南地方	50,168	385,083	423,416	16.12

	民有林面積 (ha)	林道延長 (m)	林内公道延長 (m)	林内道路密度 (m/ha)
西白河地方	22,953	89,817	201,691	12.70
白河市	12,386	51,737	125,696	14.33
西郷村	8,000	32,660	44,505	9.65
泉崎村	1,123	5,420	18,003	20.86
中島村	322	0	0	-
矢吹町	1,122	0	13,487	12.02

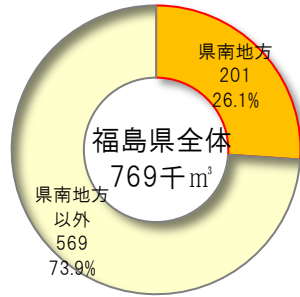
	民有林面積 (ha)	林道延長 (m)	林内公道延長 (m)	林内道路密度 (m/ha)
東白川地方	27,215	295,267	221,725	19.00
棚倉町	6,374	50,718	54,521	16.51
矢祭町	6,382	97,390	40,732	21.64
埴町	8,379	82,120	65,298	17.59
鮫川村	6,080	65,039	61,174	20.76

※平成29年福島県森林・林業統計書、福島県民有林林道の現状

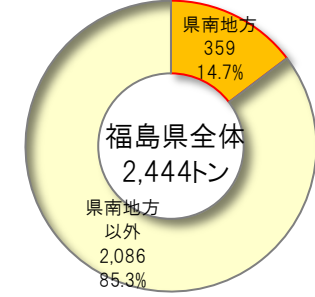
(7)林産物の生産状況

○平成28年の林産物の生産状況における、県に占める割合は、素材生産量が26.1%、生いたけ生産量が14.7%、木炭生産量が65.4%
 ○生いたけ生産量と木炭生産量は震災以降減少したものの回復傾向にあり、素材生産量は震災前と比べて増加している。

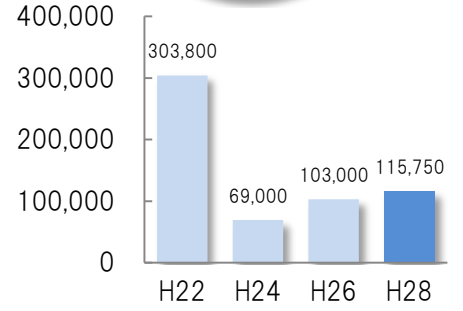
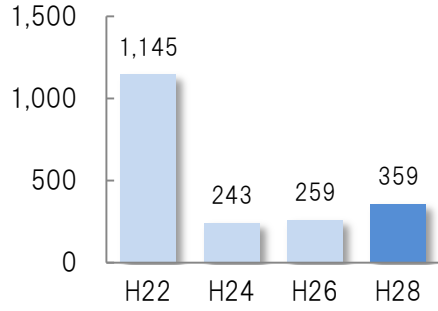
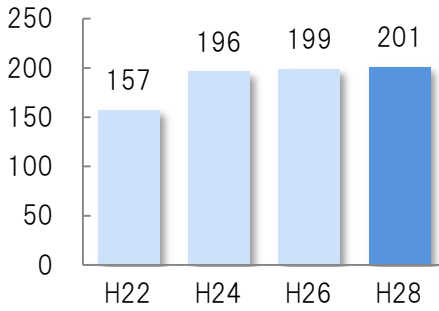
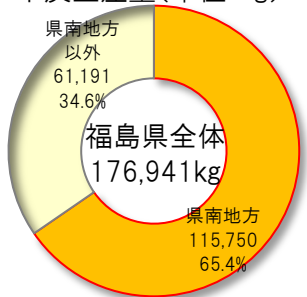
素材生産量(単位:千m³)



生いたけ生産量(単位:トン)



木炭生産量(単位:kg)

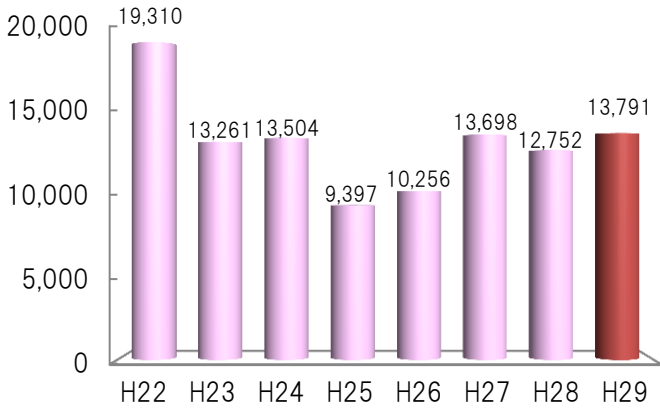


※木材需給と木材工業の現況、平成29年福島県森林・林業統計書

(8)森林づくり意識醸成活動参加人数

○平成29年度の森林づくり意識醸成活動参加人数は13,791人
 ○平成25年度以降、増加傾向にある

単位:人



※福島県森林保全課調べ

コラム

もり 森林づくり意識醸成活動

豊かな森林を健全な状態で未来へ引き継ぐためには、社会全体で森林・林業の重要性について考え、保全活動を行っていく必要があります。

本県では、福島県もりの案内人認定制度やみどりの少年団による育樹活動など、様々な取組を実施しています。

平成30年6月10日には「第69回 全国植樹祭ふくしま2018」が南相馬市で開催され、森林について考えるきっかけにもなりました。

県南地方では、JR白河駅前イベント広場においてPR会場を設け、南相馬市からの式典中継や、森林・林業を中心とした各種イベントを実施し、森林づくりの重要性をPRしました。

3 東日本大震災の被災及び復旧の概要

(1)被害の概要と復旧状況

- 平成23年3月11日、南三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生
- 県内の死者・行方不明者数は4,090名、96,027棟の住宅が全半壊(H30.12.5現在)
- 県南地方では、白河市葉ノ木平地区で発生した地滑りをはじめ、土砂崩れ等により死者17名、住宅の全半壊4,799棟の被害(H30.12.5現在)
- 農地・農業用施設の被害額は8,004百万円、林道・林業関連施設の被害額は152百万円
- 平成29年度までに農地・農業用施設で320箇所、林道・林業関連施設で45箇所の災害復旧工事を完了。管内の復旧工事はすべて終了
- 管内市町村で実施してきた農林地の除染作業は平成29年7月にすべて終了

(2)県の取組

県では震災以降放射性物質モニタリング検査、米の全量全袋検査を実施しています。

平成29年度 放射性物質モニタリング検査結果 平成29年度産米全量全袋検査結果 (H30.12.14現在)

種類	検査点数	基準値超過点数	市町村		
			検査点数	基準値超過点数	
穀類 (大豆、小豆、麦類、そば)	134	0	白河市	538,818	0
野菜	307	0	西郷村	125,125	0
果実	68	0	泉崎村	97,027	0
山菜・きのこ類	225	1	中島村	94,794	0
樹実類	225	1	矢吹町	220,832	0
畜産物 (鶏卵、肉類、はちみつ)	368	0	棚倉町	152,983	0
魚介類	86	0	矢祭町	38,451	0
飼料用作物	121	0	塙町	86,608	0
合計	1,309	1	鮫川村	37,800	0
			合計	1,392,438	0

県南農林事務所での取組

県南地方の6次化商品 (企画部)

6次化商品とは、地域の農林水産物を、1次、2次、3次の各産業が連携・融合して、付加価値を創造した商品です。県南地方では、地域産業の6次化に取り組もうとする人を応援する会員制の組織「しらかわ・地域産業6次化ネットワーク」を中心に地域産業6次化に関する各種情報をお届けしています。

また、地元消費者に6次化商品をはじめとする県南地方の特産品をPRのために、大手量販店の協力を得て「しらかわ食・人フェア」を毎年開催しています。平成30年度に実施した上記フェアには、管内で6次化産業に取り組む9事業者が参加し、ドレッシングやジュース、漬け物などの加工品全66アイテムを販売しました。



第三者認証GAPの取組 (農業振興普及部)

「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」のもと、県南農林事務所ではプロジェクトチームを結成し、普及指導活動や補助事業の活用促進などに取り組んでいます。GAP(農業生産工程管理)の取得は所得の向上、農作業事故ゼロ、風評払拭につながる重要な取り組みであり、県ではGAP認証取得日本一を目指しています。

この取り組みをさらに推進するため、本年9月に白河市内で「平成30年度県南地方GAP研修会」を開催しました。研修会には生産者・市町村・JA関係者ら約50名が出席し、GAP推進員によるGAPの基礎や優良事例の紹介、GAP取得者による事例発表が行われました。会場からは農産物に対する責任や自信につながるなどの意見が出され、更なる取得拡大に弾みがつきました。



↑GAP研修会の様子

「田んぼの学校」の取組 (農村整備部)

県では、農村地域を活用し、農業と食・命の大切さを学ぶことを目的に「ふくしまの農育(田んぼの学校)」を実施しています。

県南地方においては、埴町立埴町小学校5年生を対象に、うるち米ともち米を栽培を実施しました。

5月の田植えから、9月の稲刈り、10月の脱穀まで地元の方々から作業の手順や教わったほか、脱穀の際には昔と今の道具の違いを体験するなど、農業者の苦勞を学び、おこめ一粒一粒を大切に育てる心が芽生えました。

夏にはアクアマリンふくしまの先生をお招きして、田んぼの生き物調査を行いました。珍しい生き物も見つかり、田んぼを中心とした豊かな水環境についての理解が深まりました。

子どもたちからは「田んぼには色々な生き物がいることがわかった。」「ご飯がおいしく感じるようになった。」といった感想が聞かれました。また、子どもが兄弟姉妹で参加してきたという保護者は「大勢の人に手伝ってもらいながら、上の子の世代から田んぼの学校がつながってきて嬉しい。」と話してくださいました。



福島を担う子どもたちの心に、田んぼを通じて食と命の大切さが伝わってきていると思います。

←生きもの調査の様子

高校生の林業現場見学会を開催 (森林林業部)

県南農林事務所では林業分野への新規就業者の確保に向け、林業現場見学会を開催しています。平成30年度は、県立修明高等学校鮫川校、及び県立白河実業高等学校の生徒を対象に2回開催し、総勢約70名が参加しました。

伐採現場や製材工場などの見学を行い、伐採現場では、チェーンソーによる伐倒作業やプロセッサ(枝払い・玉切りを行う機械)による造材作業の見学を行った後、チェーンソーや高性能林業機械の簡単な操作方法を体験し、木の成長に応じた間伐などの森林の手入れを行う林業の仕事の重要性を学びました。

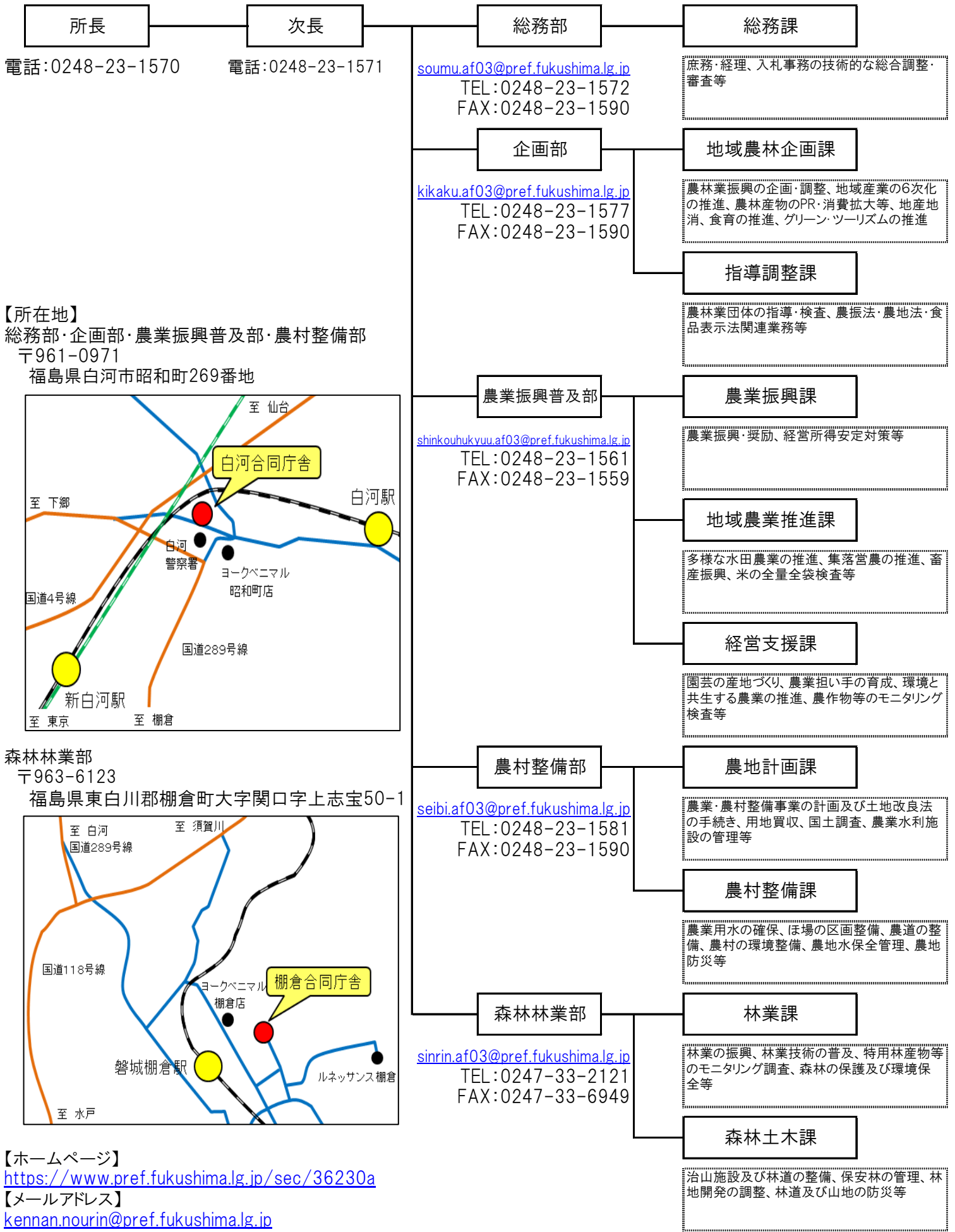
参加した学生からは、「実際に機械に触れることができ貴重な体験となった」「女性でも働いている人がいて林業のイメージが変わった。」などの感想が聞かれました。

今後も、林業への就職に関心を持っていただけるよう、このような取組を継続して実施してまいります。

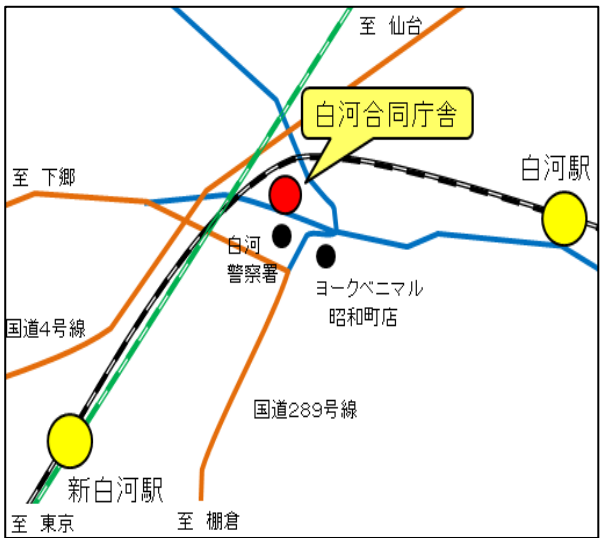


↑チェーンソー操作体験

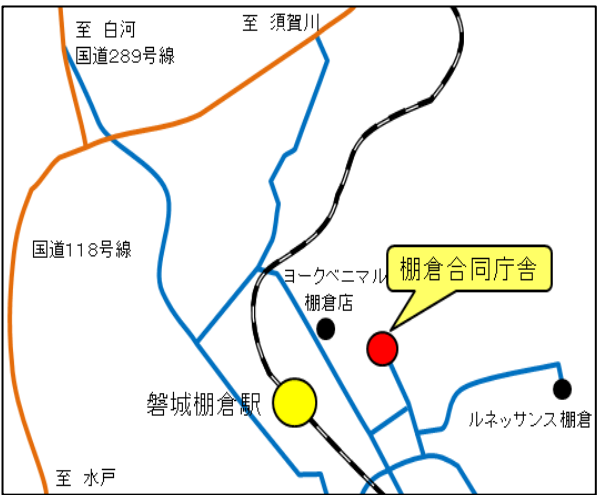
県南農林事務所組織体制図



【所在地】
 総務部・企画部・農業振興普及部・農村整備部
 〒961-0971
 福島県白河市昭和町269番地



森林林業部
 〒963-6123
 福島県東白川郡棚倉町大字関口字上志宝50-1



【ホームページ】
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36230a>
 【メールアドレス】
kennan.nourin@pref.fukushima.lg.jp

表紙写真(左上から)
 復旧治山工事(上日影地区)、川谷地区の桜(西郷村)、管更正工(隈戸川地区)、雪割橋(西郷村)、キャベツ収穫機、ダリア(埴町)、首都圏大学生による農業体験(矢祭町)



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

【編集発行】

福島県県南農林事務所

企画部 地域農林企画課

電話:0248-23-1577 FAX:0248-23-1590

住所:〒961-0971

福島県白河市昭和町269番地